

横浜国立大学 副専攻プログラム

Yokohama National University Undergraduate sub-major program

地域交流科目

履修案内 2024

"Local-exchange Subjects" 2024 Syllabus



YOKOHAMA

オリエンテーション は 動画で配信！



下記のHPを通じてYouTube等の
情報をチェックしてください。

<https://chiki-ct.info/kouryu>

グローバルな視野をもって地域課題を解決する
先端的かつ複合的な**実践能力**を身につけるプログラム

This program trains students to solve local challenges
with a global perspective and acquire advanced, integral, practical skills.

『地域交流科目』の概要

Outline "Local-exchange Subjects"

グローバル化が進むなかで、実際の経済活動の場である都市・地域の活力を維持し、そこに生活する市民の生活の質をいかに高めていくかが、21世紀初頭の課題になってきています。

このような現代的課題とニーズに対応するため、本学では、「教育学」「経済学」「経営学」「理工学」「都市科学」が連携して、各学部領域を横断して学べる副専攻プログラム「地域交流科目」を設置し、グローバルな視野をもって地域課題を解決できる先端的かつ複合的な実践能力を身につけるプログラムを設けています。

*副専攻プログラムとは

副専攻とは、自分自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学習するプログラムです。

副専攻プログラムである「地域交流科目」は、「地域」に関わる知識を学部横断型で学び、地域への「交流」を踏まえながら、実践能力を身につける副専攻プログラムとなっています。

*副専攻プログラムの修了認定

- ・修了認定の要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。
- ・修了が認定されると、成績証明書の特記事項欄に「副専攻プログラム（地域実践）修了」と記載されます。
- ・これまでの実践的な取り組みを就職や進学の際に端的にアピールするものとして効果が期待できます。

* About the Undergraduate sub-major program "Local-exchange Subjects"

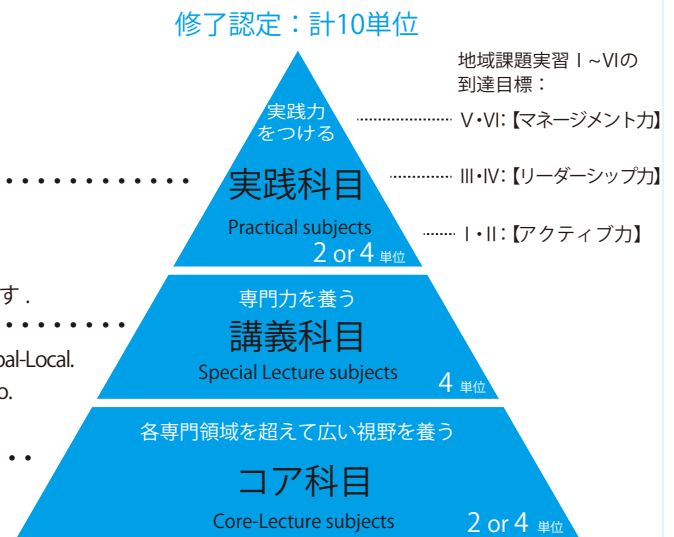
Local-exchange Subjects connects independent subjects from all departments to train students as young talent who can solve local challenges with a global perspective. This program consists of ①Core-Lecture subjects, ②Special Lecture subjects, ③Practical subjects. On completion of these ten credits through attendance and participation, the student will be awarded a completion certificate for the accredited sub-major program.

*地域交流科目のプログラム体系

- ・実践科目は各地域の課題を解決するために実践的活動です。
- ・地域課題実習やその他の実践的な授業から、学生は選択できます。
- ・多くの学生が複数年にわたり履修・参加しています。
- ・The Practical subjects are active to solve the problem in local.
- ・Student can select a project from the Local Challenges Trainings.
- ・Many students are studying it over the years.

- ・講義科目は各学部から提供されている地域に関する専門的講義です。
- ・自分自身が所属する学部以外の講義の受講が可能です。
- ・Special Lecture subjects are picked up by each department about the Global-Local.
- ・It is possible to take the lectures outside of the department you belong to.

- ・コア科目では地域に関する基礎的な知識を学べます。
- ・地域で活躍する教員・実務者・行政によるオムニバス講義です。
- ・Learn about the basics of local areas.
- ・Omnibus lecture by the professor, businessman, government.



単位の修得例：
 コア科目 4 単位 + 講義科目 4 単位 + 実践科目 2 単位 = 計 10 単位
 コア科目 2 単位 + 講義科目 4 単位 + 実践科目 4 単位 = 計 10 単位

※地域課題実習は 2022 年度から地域課題実習 V、VI が加わります。各段階の到達目標は下記のとおりです。

- ・**地域課題実習 I・II:【アクティブ力】** 対象とする地域の特徴や課題、およびプロジェクト活動の内容を把握する。プロジェクト活動を通じてコミュニケーション力をつけ、能動적およびアクティブに活動を実践できる力をつける。
- ・**地域課題実習 III・IV:【リーダーシップ力】** プロジェクト内のグループの班長、さらにはプロジェクトのリーダーとして、活動を推進する力をつける。また、地域関係者との連絡・調整を行うことができるコミュニケーション力を身につける。
- ・**地域課題実習 V・VI:【マネジメント力】** プロジェクトのリーダーとしてプロジェクトをマネジメントする力を身につける。また、地域課題実習全体に目を向けて横断的な連携や、国内外における様々な取組みに目を向けた情報発信など、プロジェクト活動の更なる発展や展開方法などを図る力をつける。

履修・申請の流れ

Step for the take the subjects and applications



「オリエンテーション」は動画で配信！

下記および右のQRコードによるHPを通じてYouTube等の情報をチェックしてください。



<https://www.chiki-ct.info/kouryu>

地域交流科目の説明や、地域課題実習の各プロジェクト等の紹介があります。教員や昨年から履修・参画している学生達からの楽しく充実したプレゼンテーションが盛り沢山。気になる方はCheck out！



「履修登録」

副専攻として履修する単位が、各学部における卒業取得要件と重なる場合は、どちらの単位としても認められます。

most important!

実践科目：「地域課題実習」を履修・参画する全員の方へ：

地域課題実習のⅠ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,Ⅴ,Ⅵのいずれかを履修登録した上で、「所属したいプロジェクト」を、下記サイト(QRコード)の「地域課題実習 参画プロジェクト申請フォーム」から登録申請をしてください。

<https://forms.office.com/r/X11e0d7UCy>

* 地域実践センターのHPサイトにも、上記 form アドレスは掲載されています。

(登録申請をしないと成績が付きません！)

最重要

■ 申請×切は4月19日(金) 23:59まで

地域課題実習は1年間を通じて同じプロジェクトを履修・参画してください。

要既読

地域課題実習を「単位履修なしで参画したい人」も所属したいプロジェクトの登録申請して下さい。

要既読

秋学期に、地域課題実習を履修登録し忘れないように！忘れる人が多いです。>_<;

要既読



「地域交流科目」計 10 単位

「地域交流科目」は、4年間をかけて、どの科目・授業から履修しても良いです。

修了認定申請書

「修了認定」の申請

* 修了認定は自己申請によって認定されます。

修了認定の要件：

- ①：コア科目 2単位以上 取得
 - ②：講義科目
 - ③：実践科目 2単位以上 取得
 - ④：上記①と③の合計6単位以上
 - ⑤：講義科目と合わせて上記①~③の合計が10単位以上
- * 2022年度の申請分から「GPA 3.0以上であること」の要件が外されました。

* 申請方法が、2022年度より変更されます。

修了申請する人は、下記の申請フォームを通じて申請してください。

* 下記フォームにおいて「貴方の地域交流科目の単位取得状況・結果を、事務局を通じて確認すること。」を承認することで、成績証明書の提出は不要になります。

■ 修了申請フォーム：<https://forms.office.com/r/0Y4g6Z0umd>

* 地域実践センターのHPサイトにも、上記 form アドレスは掲載されています。

申請×切：4/19, 11/22, 2/14*

修了認定は自己申請によって認定されます。修了申請を出すタイミングは、単位取得直後でも、就活・進学前の時期でもOKです。

要既読

- ・ 申請の×切後：1ヶ月後ぐらいに認定がされます。
- ・ 提出は随時受け付けています。



「地域交流科目」一覧

The List of the "Local-exchange Subjects"

●各授業の内容は、全学教育科目および各専門科目のシラバスをご確認ください。

カテゴリ	開講学部	科目名	担当	対象学年	開講期	単位	備考欄
コア科目	全学教育科目	地域連携と都市再生A (ヨコハマ地域学)	志村・内海・秋元	1~4年	春	2	※都市科学部生は学部共通科目として履修
		地域連携と都市再生B (かながわ地域学)	志村・池島・伊集	1~4年	秋	2	※都市科学部生は学部共通科目として履修
		神奈川のみらい	為近・湯沢	1~4年	春	2	
		横浜学-地域の再発見-	安野	1~4年	春	2	
全学教育科目		建築の環境と防災	吉田 他	1~4年	秋	2	※一部学科・EP(建築系)履修不可
		ベンチャーから学ぶマネジメント	軸屋・井上	1~4年	秋	2	
		現代の物流経営	倉田	1~4年	秋	2	
		環境をめぐる諸問題Ⅰ	酒井 他	1~4年	第4ターム	1	
		環境をめぐる諸問題Ⅱ	小林 他	1~4年	第5ターム	1	
		グローバル化と日本人	市村	1~4年	秋	2	
		色彩論	伊東	1~4年	春	2	
		安全・環境と社会	澁谷 他	1~4年	春	2	
		エネルギーと環境	大槻・辻	1~4年	春	2	
		海事技術史	南	1~4年	春	2	
		海洋工学と社会	海洋EP各教員	1~4年	秋	2	
		物質工学と社会	松本・他	1~4年	春	2	H31より新規科目
		システム・エンジニアリング	藤井	1~4年	春	2	H31より新規科目
		アート・マネジメント	永澤	1~4年	秋	2	R5より新規追加
		これまでの学校教育・これからの学校教育	石塚・他	1~4年	秋	2	
		日本の言語	古田	1~4年	春	2	
		地誌学概論	池口	1~4年	秋	2	
		日本前近代史	多和田	1~4年	春	2	
		日本語教育から広がる世界	橋本	1~4年	春	2	
		多文化共生のための教科横断STEAM教育	橋本・他	1~4年	春	2	
		心理学史	鈴木 (朋)	1~4年	春	2	R6より新規追加
		JASPIによるデータ分析	上松	1~4年	秋	2	
		身近な電気と機械	坂本	1~4年	春	2	
		特別支援教育入門	後藤・他	1~4年	春	2	
		特別支援教育入門	神山・他	1~4年	秋	2	
		くらしの化学	古茂田	1~4年	秋	2	
里山でつなぐESD考	倉田	1~4年	秋	2			
講義科目	教育学部	日本史概論Ⅰ	多和田	2~4年	秋	2	隔年開講のため2024年度なし
		教育社会学	新谷	2~4年	春	2	
		教育経営	石塚 等	2~4年	春	2	理工学部・都市科学部の教員免許取得希望者の履修は不可(自学部開講科目を履修)
		情報通信技術の活用	村上	1~4年	第5ターム	1	
		ICTによる現代的な教育課題の解決	村上	2~4年	秋	2	
		英語文学論Ⅰ	高瀬	2~4年	春	2	
		英語文学論Ⅱ	高瀬	2~4年	秋	2	
		英語圏文化論	高瀬	2~4年	秋	2	
		化学特講Ⅱ	鈴木	3~4年	春(集中)	2	
		生物学特講Ⅱ	倉田	3~4年	春(集中)	2	R6より新規追加
		中等教科教育法(音楽Ⅲ)	金光	2~4年	秋	2	
		音楽史概説Ⅰ	金光	2~4年	秋	2	
		音楽史概説Ⅱ	金光	2~4年	春(集中)	2	
		住居学演習	佐桑	3~4年	秋	2	
経済学部		地方財政	山口(伊集)	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級地方財政	山口(伊集)	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級地方財政	山口(伊集)	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		地域経済政策	居城	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級地域経済政策	居城	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級地域経済政策	居城	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		国際環境経済論	氏川	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級国際環境経済	氏川	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級国際環境経済	氏川	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		現代社会福祉	加藤(相馬)	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級現代社会福祉	加藤(相馬)	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級現代社会福祉	加藤(相馬)	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		比較農業政策	倪(池島)	2~4年	第1ターム	2	H29以降入学生
		中級比較農業政策	倪(池島)	3~4年	第2ターム	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級比較農業政策	倪(池島)	2~4年	第2ターム	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		課題プロジェクト演習 地域経済	—	2~3年	—	2	経済学部生のみ受講可
		途上国経済	山崎	2~4年	春	2	H29以降入学生
		中級途上国経済	山崎	3~4年	秋	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)
		中級途上国経済	山崎	2~4年	秋	2	経済学部DSEP生およびLBEEP生のみ
		地域イノベーション政策	遠藤	2~4年	秋	2	
家族と法	柳迫	3~4年	春	2	H29以降入学生(経済学部DSEP生およびLBEEP生は除く)		
家族と法	柳迫	2~4年	春	2	経済学部DSEP生のみ		
民法(親族・相続)	柳迫	2~4年	春	2	経済学部LBEEP生のみ		

講義科目	経営学部	産業分析 Production and Operations Management 生態会計論 マクロ会計論 企業環境マネジメント論 地域環境マネジメント論 マーケティング論 ホスピタリティ・マネジメント	貴志 鈴木(定) 曹 大森 孫 孫 鶴見 森田	3~4年 3~4年 2~4年 2~4年 2~4年 1~4年 2~4年	春 秋 秋 秋 春 秋 秋	2 2 2 2 2 2 2	科目名変更 (旧:Operations Managements) 旧:生態会計論 I R6より新規追加
	理工学部	環境管理学 データサイエンス	中井 森,富井,島,村山	3~4年 3~4年	秋 春	2 2	
講義科目	都市科学部	コミュニティデザイン講義	佐藤(峰)	1~4年	秋	2	2020年度以前入学生は「国際開発学講義」で履修 2020年度以前入学生は「都市計画と交通」で履修 2020年度以前入学生は「コミュニティ開発演習Ⅰ」を履修 2020年度以前入学生は「コミュニティ開発演習Ⅱ」を履修 R5より新規追加 R5より新規追加 R5より新規追加
		都市生態学	佐々木	1~4年	第4ターム	1	
		保全生態学	佐々木	2~4年	第5ターム	1	
		生態リスク学入門	松田 他	1~4年	第1ターム	1	
		里地と山地の生態学Ⅰ	小池(文) 他	2~4年	第4ターム	1	
		里地と山地の生態学Ⅱ	酒井 他	2~4年	第5ターム	1	
		都市基盤計画論	松行	1~4年	第5ターム	1	
		地域・都市計画	松行	2~4年	第4ターム	1	
		都市基盤解析論	安部	2~4年	秋	2	
		居住空間の計画Ⅰ	藤岡	2~4年	第1ターム	1	
		居住空間の計画Ⅱ	藤岡	2~4年	第2ターム	1	
		建築環境計画Ⅰ	田中(稲)	2~4年	第1ターム	1	
		建築環境計画Ⅱ	田中(稲)	2~4年	第2ターム	1	
		都市と都市計画Ⅰ	尹	2~4年	第4ターム	1	
		都市と都市計画Ⅱ	尹	2~4年	第5ターム	1	
		都市環境リスク共生論A	佐土原	2~4年	第4ターム	1	
		都市環境リスク共生論B	佐土原	2~4年	第5ターム	1	
コミュニティデザイン演習Ⅰ	佐藤(峰)	2~4年	第1ターム	1			
コミュニティデザイン演習Ⅱ	佐藤(峰)	2~4年	第2ターム	1			
高齢社会とリスクA	安藤	2~4年	第4ターム	1			
高齢社会とリスクB	安藤	2~4年	第5ターム	1			
都市・地域経済学Ⅰ	遠藤	2~4年	第1ターム	1			
都市・地域経済学Ⅱ	遠藤	2~4年	第2ターム	1			
国際社会学演習Ⅰ	長谷川	2~4年	第1ターム	1			
国際社会学演習Ⅱ	長谷川	2~4年	第2ターム	1			
国際社会学講義	長谷川	2~4年	秋学期	2			
実践科目	教育学部	学外活動(教育ボランティア)	鈴木(洋)・他	1~4年	春・秋	2	R6より新規追加 教員免許取得希望者のみ 教育学部生のみ R6より新規追加 教育学部生のみ R6より新規追加 教育学部生のみ
		学外活動・学外学習Ⅰ	鈴木(洋)・鈴木(俊)	1~4年	春・秋	2	
		学外活動・学外学習Ⅱ	鈴木(洋)・鈴木(俊)	1~4年	春・秋	2	
		学外活動・学外学習Ⅲ	鈴木(洋)・鈴木(俊)	1~4年	春・秋	2	
	全学教育科目	地域課題実習Ⅰ	志村 他	1~4年	春	1	※2024年度入学以降の都市科学部生は学部共通科目として履修 ※2024年度入学以降の都市科学部生は学部共通科目として履修 R4より新規科目 R4より新規科目 (地域課題実習) ソクラテスプログラムの学生専用
		地域課題実習Ⅱ	志村 他	1~4年	秋	1	
		地域課題実習Ⅲ	志村 他	2~4年	春	1	
		地域課題実習Ⅳ	志村 他	2~4年	秋	1	
		地域課題実習Ⅴ	志村 他	3~4年	春	1	
		地域課題実習Ⅵ	志村 他	3~4年	秋	1	
		Global-Local Project Based LearningⅠ	志村 他	1~4年	春	1	
		Global-Local Project Based LearningⅡ	志村 他	1~4年	秋	1	
		Global-Local Project Based LearningⅢ	志村 他	2~4年	春	1	
		Global-Local Project Based LearningⅣ	志村 他	2~4年	秋	1	
		Global-Local Project Based LearningⅤ	志村 他	3~4年	春	1	
		Global-Local Project Based LearningⅥ	志村 他	3~4年	秋	1	
		講義科目	理工学部 (都市科学部)	都市基盤計画			
交通計画							
居住空間の計画							
屋外気候と建築環境							
都市と都市計画							
建築・地域環境計画Ⅰ							
都市生態学							
生態リスク学							
里山生態学							
国際開発学講義							
コミュニティ開発演習Ⅰ(英語)							
コミュニティ開発演習Ⅰ(日本語)							
コミュニティ開発演習Ⅱ							
コミュニティ開発演習Ⅱ(日本語)							
環境・エネルギーシステム論Ⅰ							
環境・エネルギーシステム論Ⅱ							
実践科目	全学教育科目			実践地域と起業			
		ROUTEプロジェクト					

●閉講科目

●昨年度まで地域交流科目の選択必修科目(講義科目)に登録されていた講義で、今年度から閉講になっている講義も、修了認定をするための科目として位置づけられます。

講義科目	全学教育科目	健康スポーツ演習B 健康スポーツ演習B グローバルビジネス・コミュニケーション 海と地域のつながりと活性化				
	教育学部	自然地理学 共生社会論ⅠD(社会生活論) 共生社会論ⅡB(国際社会学) グローバリゼーションと地域社会Ⅱ 生物学特講Ⅰ 日本史概論Ⅰ				
	経済学部	民法Ⅳ				
	経営学部	産業分析 Operations Management 生産システム論 生態会計論Ⅰ 生態会計論Ⅱ				
	理工学部 (都市科学部)	地域・都市計画 都市計画と交通				

講義科目	理工学部 (都市科学部)	都市基盤計画				
		交通計画				
		居住空間の計画				
		屋外気候と建築環境				
		都市と都市計画				
		建築・地域環境計画Ⅰ				
		都市生態学				
		生態リスク学				
		里山生態学				
		国際開発学講義				
		コミュニティ開発演習Ⅰ(英語)				
		コミュニティ開発演習Ⅰ(日本語)				
		コミュニティ開発演習Ⅱ				
		コミュニティ開発演習Ⅱ(日本語)				
		環境・エネルギーシステム論Ⅰ				
		環境・エネルギーシステム論Ⅱ				
		実践科目	全学教育科目	実践地域と起業		
ROUTEプロジェクト						



凡例

プロジェクト (PJ) 名
Project Title

- ①プロジェクトの種類 (下記のどちらか)
 - ・課外実習プロジェクト (担当教員によるPJ立ち上げ)
 - ・学生公募型プロジェクト (学生主導によるPJ立ち上げ)
- ②主担当教員名、連絡先
- ③学生公募型プロジェクトの場合の代表学生、連絡先
- ④Overseas student (留学生の履修・参画)
- ⑤プロジェクト概要
- ⑥プロジェクトの概要・目的・内容

※詳細および追加情報は、下記サイトからダウンロードできます。

<https://chiki-ct.info/kouryu>

学生公募型プロジェクトの募集

地域と連携した実践的な取り組みを横浜国立大学内の学生から広く公募します。学生公募型プロジェクトを立ち上げる学生は、事前にセンターへ連絡することによって、オリエンテーションの際にプロジェクトの紹介を行うこともできます。応募に関する詳細、条件、および申請書は、下記のアドレスやQRコード先からダウンロードしてください。

■ 申請・提出：まずは地域実践教育研究センターまでご連絡ください。申請書をお送りします。 chiki-ct@ynu.ac.jp

■ 提出締切日：4月19日 (金) 23時59分まで

地域課題実習を履修・参画するみなさんへ：

実習時の怪我や事故の万一の可能性を考慮して、入学時に「学生教育研究災害傷害保険」や「生協の学生総合共済 (生命共済)」等の保険に加入してください。(多くの学生は入学時に加入しているようです。保護者の方にもご確認ください。)

<https://www.ynu.ac.jp/campus/support/insurance.html>

※ 「学生教育研究災害傷害保険」は、学生が教育研究活動中に被った災害に対し必要な給付を行い、大学の教育研究活動の充実に資するための互助共済的な制度として創設されたものです。

01 アグリッジプロジェクト

Agridge Project

- ①学生公募型プロジェクト
- ②池島祥文： ikejima@ynu.ac.jp
- ③石井夏帆、戴重光希： face.kmmy@gmail.com
- ④Overseas student：○
- ⑤農業や食を通じて地域活性化に取り組む。大学近くの畑での実践やイベントへの出店、フードロス削減のための商品考案を行う。
- ⑥農業や食による地域活性化を目的として大学近くの畑や周辺の地域を拠点に活動する。「ビジネスによる経済活性化・地域コミュニティの活性化・技術開発(研究)による活性化」という3つを軸にして、多数のプレイヤーを巻き込みながら学生が主体となり多様な活動をしていく。

02 鶴見区での外国人児童の学習支援

Assistance to Non-Japanese School Children in Tsurumi Ward

- ①課外実習プロジェクト
- ②山崎圭一： yamazaki-keiichi-zg@ynu.ac.jp
- ③Overseas student：×
- ④鶴見区の入船小学校でブラジル人などの外国籍の児童の学習支援をNPO法人ABC Japanの活動に参加する形で実施する。
- ⑤ブラジル政府の最高勲章や日本の外務大臣賞など多文化共生の分野で数々の賞を受けてきたNPO法人ABC Japanの学習支援活動「つるみーによ」に参加する(横浜市のボランティア登録をする)形で、横浜市立入船小学校の外国籍児童の学習支援を実施する。大学では外国人労働者問題や多文化共生の・・・(つづく)

03 BOSAIラボ

BOSAI Lab. (Disaster Mitigation Lab.)

- ①課外実習プロジェクト
- ②小松伶史： komatsu-satoshi-yx@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤災害に関する知識を身に付け、コミュニティの課題を把握し、防災のあるべき姿を仲間と議論することで、解決策を提案・実践する。
- ⑥「防災・減災」に対して、自分たちが学生の立場でできることを考え、実践・研究に取り組んでいます。昨年度は「横国生」「避難所」「防災行動」「まち歩き」の4つの実践チームに分かれて活動し、留学生向けの防災イベントやアンケート調査、フィールドワークなど、形につながるような活動を行っています・・・(つづく)

04 地域と移動から見たまちづくりの実践

Community development practice from the perspective of locality and mobility

- ①学生公募型プロジェクト
- ②池島祥文： ikejima@ynu.ac.jp
- ③(共同代表) 伊藤広登 ito-hiroto-jf@ynu.jp
浴多佑 eki-tasuku-xm@ynu.jp
- ④Overseas student：×
- ⑤まちの魅力を高めるために地域と移動の視点から地域の方々と企業、行政、学生内の対話を通じて実践的にまちづくりに取り組む。
- ⑥まちの魅力を高めるために、モビリティ(移動のしやすさ)のあり方の提案・実装を目指す。2024年度は「地域情報のマップ化」「地域拠点からつながりをまちに拓く活動」「みらいの駅まちを描く活動」に取り組む。

05 コットンおとなりさんプロジェクト

Cotton Otonarisan Project

- ①学生公募型プロジェクト
- ②伊集守直 iju-morinao-sx@ynu.ac.jp
- ③美藤優斗 bito-yuto-rd@ynu.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤コットンハーバー地区を舞台として、神奈川大学の学生や地域の自治会などと連携して、地域のつながりづくりに取り組んでいます。
- ⑥横浜市東神奈川にあるコットンハーバー地区という場所、世代を超えた居場所づくり・コミュニティづくりを目的として地域自治会や関係者、神奈川大学の学生と連携して活動しています。具体的には、交流の居場所づくりを目的としたCCTパークという・・・(つづく)

06 キャンパスの魅力を耕すプロジェクト

Cultivating attractions of campus project

- ①課外実習プロジェクト
- ②藤原徹平： fujiiwara-terppei-tw@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤キャンパス内の資源を活用しながら、学生や地域の方にとってより魅力的な居場所づくりに取り組んでいます。
- ⑥キャンパス内の資源を活かした居場所づくりに取り組んでいます。居場所をつくること、つかうことを通じて地域との交流を深めることを目的としています。日干しれんがの工法研究に始まり、建築学科棟横の居場所づくりや、窯を中心とする新たな活動の創出に取り組んできました。これからも地域の方が多く訪れる横国に相応しい、学生と地域の交流の在り方を模索していきます。

07 "緑食の場"を耕すプロジェクト

Cultivating spaces of "Enshoku" as a community hub

- ①学生公募型プロジェクト
- ②寺田真理子： terada-mariko-zt@ynu.ac.jp
- ③物部果穂： monobe-kaho-zm@ynu.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤キャンパスを学生だけでなく、地域の人たちにとってもアクセスしやすい、いろいろな人との魅力的な交流の場所となっていくよう、「食」を中心とした場の創出を試みる。
- ⑥藤原辰史さんの「緑食論」を通じて、食卓を囲むコミュニティは交流を生む大切な場だと考えています。大学内には、「食」にまつわる資源がたくさんあり、キッチンPJではパワープラントホールのキッチンを資源ととらえ、懇親会・読書会・キッチン什器の製作を通して・・・(つづく)

08 ジビエ料理研究会

Gibier cooking project

- ①学生公募型プロジェクト
- ②池島祥文： ikejima@ynu.ac.jp
- ③田室 志織： tamuro-shiori-ms@ynu.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤地方の農業を獣害から守るために、鹿肉を中心としたジビエ利用を研究、促進しています。
- ⑥現在、日本の農業において増加している獣害を防ぐことで、地域経済の促進を目指します。今でも地方自治体による補助金でハンター活動が行われていますが、駆除された獣肉はほとんど未利用で処分されています。我々はそのような獣肉を有効利用する調理方法や、肉の流通ルートを開発することで獣肉の需要・・・(つづく)

09 はまみらいプロジェクト

Hamamirai Project

- ①課外実習プロジェクト
- ②吉田 聡 yoshida-satoshi-vx@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係を考えながら、横浜の未来を考えるプロジェクト。具体的には「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に取り組んでいく。
- ⑥横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係を考えながら、横浜の未来を考えるプロジェクト。具体的には「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に取り組んでいく。

10 オモイ病院プロジェクト

Interesting and Comfortable Hospital Project

- ①課外実習プロジェクト
- ②下野誠通： shimono-tomoyuki-hc@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤YNU新湘南共創キャンパスに隣接する地域中核病院である湘南鎌倉総合病院等と連携し、病院内外の様々な課題を発見・解決する。
- ⑥YNU新湘南共創キャンパスに隣接する地域中核病院である湘南鎌倉総合病院等と連携し、病院内外を中心とする様々な地域課題の発見・解決に取り組む。具体的には、「診療待ち時間」、「病院までのアクセスと治療までのアクセス」、「エネルギー(照明点灯時間、電力量)」、「転倒転落」といった病院の困りごとにより・・・(つづく)

11 島プロジェクトin鳥羽

Island Project in Toba

- ①課外実習プロジェクト
- ②小林誉明： kobayashi-takaaki-gv@ynu.ac.jp
- ④Overseas student：○
- ⑤島を起点に文化や生活を理解し、その中で発見した強みを伸ばし弱みを補う工夫を地域の方々と共に探っていく団体です！
- ⑥私たちは三重県鳥羽市沓志島を起点に島の文化や生活を理解し、建築や経営など学校内で学んだことが課題に対してどう活用できるかを探っていく団体です。現在は、沓志島内にある集落の一つ和具地域において団体内コンペによって選ばれた学生拠点プロジェクトとウッドデッキ制作プロジェクトを運営しています・・・(つづく)

12 岩手らばーず

Iwate-Lovers

- ①学生公募型プロジェクト
- ②田中 稲子： itanaka@ynu.ac.jp
- ③西條 匡杜： saijo-masato-kh@ynu.jp
- ④Overseas student：×
- ⑤横浜から遠く離れた岩手で、様々な活動に取り組み地方創生などについて考え行動するプロジェクトです！
- ⑥横浜から遠く離れた、岩手県を中心とした東北を舞台に様々な活動に取り組んでいます！首都圏ではできないような体験を通して、地方のこれからの在り方などを考え行動するプロジェクトです！農業や漁業などの一次産業、製造業についての体験、沿岸部を訪れて被災地の現状やこれからの考え発信するなどの活動を行います！

13 都市の自然を楽しむライフスタイル
Lifestyle to enjoy nature in the city and satoyama

- ①課外実習プロジェクト
- ②小池文人: koike-fumito-nx@ynu.ac.jp
- ④Overseas student: ◎
- ⑤都市生活者が日常的に身近な自然を楽しむライフスタイルを設計して普及します。
- ⑥都市生活者が日常的に身近な自然を楽しむライフスタイルを設計して普及します。関係する自然や制度を学び、新しい楽しみ方を開発するとともに普及方法を考えます。

**16 おおたクリエイティブタウン
研究プロジェクト**
Ota Creative Town Project

- ①課外実習プロジェクト
- ②野原卓: nohara-taku-zs@ynu.ac.jp
- ④Overseas student: △
- ⑤大田区で、技術×創造×生活による「クリエイティブ・ファブタウン」構想を基に、地域拠点「くりらぼ多摩川」の運営、おおたオープンファクトリーへの参画などを通じた創造活動を行う。
- ⑥モノづくりのまち大田区で、技術×創造×生活による「クリエイティブ・ファブタウン」構想を基に、(一社)大田クリエイティブタウンセンターや地域の町工場、諸団体と協働して、地域まちづくり拠点「くりらぼ多摩川」の運営、モノづくりの・・・(つづく)

19 サコラボ
SACOLABO

- ①学生公募型プロジェクト
- ②藤岡泰寛: fujioka-yasuhiro-fg@ynu.ac.jp
- ③寺澤慶: terasawa-kei-nx@ynu.jp
- ④Overseas student: ◎
- ⑤左近山団地を対象とし、地域活性化を目的に活動する。地域住民からの要望と学生の関心に基づき、双方に有益な活動を目指す。
- ⑥左近山団地を対象とし、地域活性化を目的に活動する。地域住民の要望と学生の関心に基づき、双方に有益な活動を目指す。団地内でのイベント、学生主体のワークショップ、小中学生の学習支援等、幅広く柔軟な活動を行っている。地域住民との交流を通して・・・(つづく)

22 まちに開いた交流の場のデザイン
—住宅地の価値を上げる—
The Design of an Open Community Space in "CASACO"

- ①課外実習プロジェクト
- ②江口亨: eguchi-toru-ch@ynu.ac.jp
- ④Overseas student: ◎
- ⑤野毛山の住宅地にあるシェアハウス「casaco」にて、1階にある地域に開かれた場の使い方を企画・運営し、エリアの価値向上を目指す。
- ⑥野毛山の住宅地にあるシェアハウス「casaco」にて、1階にある地域に開かれた場の使い方を企画・運営し、エリアの価値向上を目指す。その場の主な利用者は、地域住民だけでなく、シェアハウスに住む留学生であり、学生はそこに関わって場の価値を高める企画を実施する。また、建物の運営資金の収入源は・・・(つづく)

25 ハマの屋台プロジェクト
-屋台からのまちづくり考える-
Yokohama Stand Project

- ①課外実習プロジェクト
- ②野原卓: nohara-taku-zs@ynu.ac.jp
- ④Overseas student: △
- ⑤「屋台」を使ってまちの課題解決し、地域の活力向上を目指す。地域と協働して、まちを豊かにする屋台を企画設計・製作・活用(経営)まで一気通貫で考える。
- ⑥「屋台」という都市に置かれるツールを用いて、まちの課題解決し、地域の活力向上を目指す。都市型屋台を、企画設計段階—製作段階—運用・活用(経営)段階まで、一気通貫で考えることで、地域と協働しながら、まちを豊かにする。関内外地区・常盤台地区での活動のほか、新たな場所での展開も検討する。

14 New - New Townプロジェクト
-郊外住宅地のまちづくりを考える-
New-New Town Project

- ①課外実習プロジェクト
- ②野原卓: nohara-taku-zs@ynu.ac.jp
- ④Overseas student: △
- ⑤郊外住宅地の相鉄いずみ野線沿線(南万騎が原駅周辺)の地域拠点「みなまきラボ」と連携して、生き活きとした「ニューニュータウン」づくりを行う。
- ⑥横浜市の特徴的な郊外住宅地の一つである、「相鉄いずみ野線沿線(南万騎が原駅周辺:通称みなまき)」で、相鉄×横浜市×横浜国大×オンデザインでマネジメントする地域のまちづくり拠点「みなまきラボ」と連携することで、高齢化したオールタウンを、生き活きとした「ニューニュータウン」にするための企画・実践活動を行う。

**17 伝統茅葺き民家「花三郎の家」
継承プロジェクト**
Project of preservation and utilization of the thatched-roof private house "Hanasaburo-no-le" in Kamadai

- ①課外実習プロジェクト
- ②大野敏: ono-satoshi-cs@ynu.ac.jp
- ④Overseas student: △
- ⑤緑多い屋敷奥に眠る江戸時代の古民家「花三郎の家」。所有者さんと連携して継承手法を具体的に考えます。
- ⑥江戸時代の古民家「花三郎の家」。釜ヶ崎が住宅地化する以前の1960年代に日津久井郡から移築されました。移築主は鈴木花三郎さん。会社経営者だった花三郎さんは、富士山が眺望できるこの地に素敵な本宅を構え、その前方に古民家を移築して社員の情操教育に活かそうとしました。花三郎さん没後、古民家は活躍の場を失っていましたが、所有者さんと連携して、この家を蘇らせ活かす方法を皆で考えましょう。

20 里山コミュニティデザイン
Satoyama Community Design

- ①学生公募型プロジェクト
- ②原口健一: haraguchi-kenichi-kx@ynu.ac.jp
- ③久保蒼生: kubo-aoi-ck@ynu.jp
- ④Overseas student: ◎
- ⑤学内の自然という身近な里地里山の資源を生かし、人と生物、自然にとってより心地よく、楽しい居場所にするための活動
- ⑥横浜国立大学と言えば?と質問されたら、多くの学生が自然に関する回答をするでしょう。このように本学の自然はシンボリック存在だと認識されています。しかしながら、学内の自然と人は互いに独立しながら、その営みを発展させていると感じます。そこで・・・(つづく)

23 みなとまちプロジェクト
The Port City Project

- ①課外実習プロジェクト
- ②志村真紀: shimura-maki-pw@ynu.ac.jp
- ④Overseas student: ◎
- ⑤地方のみなとまち(清水港)の地域資源をブランディングし、地域の魅力を伝え活性化させる活動を行います。
- ⑥当プロジェクトでは国内外のみなとまちから学びながら、静岡県清水港を対象地として、調査・ワークショップを踏まえて清水港周辺の地域資源:「お茶・清水次郎長・伊豆石・倉庫群・港湾線・富士山」をブランディング・エッセンスとして位置付け、港に航する国内外の来客をはじめ、多くの方に地域の魅力を伝え、清水のまちを活性化させる活動を実施していきます。

**26 南米農村部での学びを生かした
横浜『共生』プロジェクト(えんぴつルーム)**
Yokohama intercultural community building project (Pencil Room) using learning from rural South America

- ①課外実習プロジェクト
- ②藤掛洋子: fujikake-yoko-mp@ynu.ac.jp
- ④Overseas student: ◎
- ⑤県営団地において子どもたち(含む外国につながる子どもたち)を対象に学習支援と子ども食堂の運営をNPO他と連携して行う。
- ⑥横浜にある県営S団地において子どもたち(含む外国につながる子どもたち)を対象に南米にあるペン・ピペール(良い暮らし)という共助の文化を取り入れたサポート空間を作り、学習支援・食支援・傾聴(含む遊び)などを行う。履修学生たちは、NPO、行政、地域組織、地域住民との意見交換などを通じて、・・・(つづく)

15 転倒しない街共創ラボ「こらぼ」
No Falling Down City Co-Creation Lab

- ①課外実習プロジェクト
- ②島圭介: shima-keisuke-sh@ynu.ac.jp
- ④Overseas student: △
- ⑤高齢者の転倒防止技術の社会実装を目指すリビングラボを開催し、参加者との対話を通して、社会への導入の方法を模索します。
- ⑥高齢者の転倒防止技術の社会実装を目指すリビングラボに参加し、様々な参加者との対話を通して、技術開発の方向性や社会への導入の方法を模索します。最先端技術で地域の未来を豊かにする活動に参加しませんか?

18 データで捉える地域課題・地域経済2024
Regional Issues and Economies Captured by Data 2024

- ①課外実習プロジェクト
- ②居城琢: ishiro-taku@ynu.ac.jp
- ④Overseas student: ◎
- ⑤本プロジェクトは、横浜市と連携し、地域研究を推進する。特にGISや産業連関分析などデータ分析を通じ、地域課題の解決法を探る。研究成果は成果報告会をはじめ、横浜市の担当者の前で報告し、議論を行う。フィールドワークとデータ分析を連動させる。
- ⑥本プロジェクトは、横浜市・神奈川県をフィールドとして、学生自身が調査に取り組み、地域の素材を発掘することを目的とします。その成果を各自治体や、企業との共同研究として社会に発信することを狙いにします。

21 ローカルなマテリアルのデザイン
The Design for Local Materials

- ①課外実習プロジェクト
- ②志村真紀: shimura-maki-pw@ynu.ac.jp
- ④Overseas student: ◎
- ⑤広葉樹を用いた家具制作を行い、10月にオープンする羽沢のサテライトキャンパスの空間に設置します。
- ⑥神奈川県内の森林のうち約6割は広葉樹が占め、その多くは県西地域に広く分布している。しかし、現代の生活においては調理、エネルギー、生活用品等が石油由来やガス・電気に委ねられ、里山や森林との関係を失い、森が荒廃している。また、針葉樹は建築用材材として使いやすいが、広葉樹は樹種および1つ1つの枝ぶりが異なり、材質が硬いため活用しにくい。そこで・・・(つづく)

24 ワダヨコ
Wadayoko

- ①学生公募型プロジェクト
- ②尹莊植: yoon-jangshik-mr@ynu.ac.jp
- ③有倉直哉: arikura-naoya-jg@ynu.jp
- ④Overseas student: ◎
- ⑤和田町でのイベント運営やエリアマネジメントを中心に、学生と地域の人が互いに支えあう街づくりを目指して活動しています。
- ⑥ワダヨコは、2010年に横浜国立大学の学生によって立ち上げられた、大学近くにある和田町との交流活動を行う学生団体です。子供向けイベントの企画・開催や、和田西部町内会・和田町商店街主催のイベントへの参加を中心とした活動を通して・・・(つづく)

27 Yokohama Univer-City
Yokohama Univer-City (YUC)

- ①学生公募型プロジェクト
- ②三浦倫平: miura-rinpei-nj@ynu.ac.jp
- ③富樫悠也: togashi-yuya-rw@ynu.jp
- ④Overseas student: ◎
- ⑤常盤台キャンパスの空間活用や外部での活動を通じて、学生・教職員・周辺住民にとって魅力的な地域づくりを行います。
- ⑥Yokohama Univer-City(YUC)とは、「大学をまちに開く」をコンセプトに始まった学生主導型プロジェクトです。常盤台キャンパスの空間活用やコミュニティの創造を通じて、学生・教職員・周辺住民にとって魅力的な地域づくりを行います。また外部での・・・(つづく)

「修了者」からのメッセージ



村本真菜

Mana MURAMOTO

教育人間科学部 マルチメディア文化課程 卒業
現在、名古屋鉄道株式会社

コア科目：地域連携と都市再生A・B
講義科目：ワークショップ「多角的共生をめざして」
建築の環境と防災、共生支援論A
実践科目：公共空間の活用とにぎわいづくりPJ

地域交流科目を受講する事で、まちづくりやNPOで活躍している外部の方と交流し、実践的な考えを知る機会を得ることが出来ました。講義で学んだ事を生かし、私は3年間、和田町商店街で賑わいづくりの活動に取り組みました。商店街や地域の住民の方々と共に和田町を盛り上げていく中で、人と人との繋がりの大切さを再確認し、身近な地域に対し自分がどのように関わっていくべきかを考える事が出来るようになりました。



山口大地

Daichi YAMAGUCHI

経済学部 卒業
現在、株式会社リクルート

コア科目：地域連携と都市再生B
講義科目：ベンチャーから学ぶマネジメント、現代の物流経営、国際環境経済論、比較農業政策、途上国経済、地域イノベーション政策
実践科目：アグリッジプロジェクト

地域交流科目では授業での経済学の理論と現場で経験する実践を並行して学ぶことで、理論がどう社会で使えるか？とワクワクする授業が増え、ゼロから始まる地域活動では机上の学びが度々活かされました。また、深い自己分析そして自己実現に必要な力が鍛えられ、私の「地元を世界一のまちに」という野望に役立つヒントも自分なりに見つけました。インターンも良いですが、自分のために大学をフル利用することをオススメします(笑)



市木晶子

Akiko ICHIKI

経営学部 会計・情報学科 卒業
現在、ソニー株式会社

コア科目：地域連携と都市再生A・B
講義科目：建築の環境と防災、環境をめぐる諸問題、企業環境システム論
実践科目：エコの芽を育てるプロジェクト

私は「エコの芽を育てるプロジェクト」に参画しました。1年目は上級生と私の4名でしたが、2年目は同学年の学生が加わり8名になりました。地域課題実習では学内から外に出て、地域の方に厳しくも温かいご指導を頂く機会もあります。自ら課題を設定し、積極的に動くことを通じて、沢山のものを得ることができます。年度末には成果発表の機会があるので、自分のしたことをしっかりとプレゼンテーションできる能力を高めて下さい。



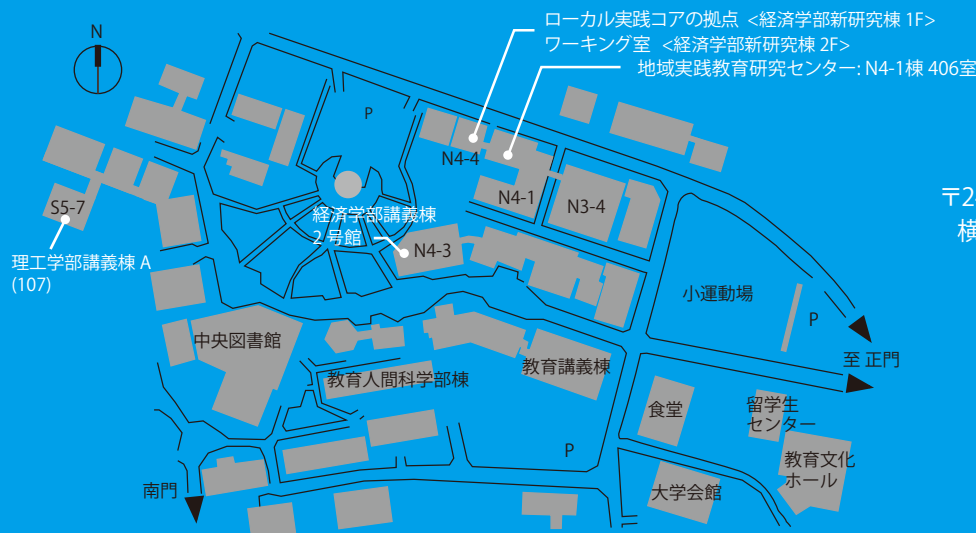
鈴木佳織

Kaori SUZUKI

都市科学部 都市社会共生学科
現在、東京都庁

コア科目：地域連携と都市再生A,B、神奈川のみらい、横浜学
講義科目：都市生態学、居住空間の計画Ⅰ・Ⅱ
実践科目：みなとまちプロジェクト

私は地域の方々と協力し、イベント運営や商品開発などを行いました。実際に地域に出て活動したことで、そこで暮らす人の生の声を聞くことができ、授業での学びを深めると共に、それ以上の知見が得られたと感じています。また、活動する上では主体性や積極性、仲間とのチームワークが不可欠でした。活動を通してそうした力を養えたことは、今後に繋がる財産になったと思います。ぜひ積極的にチャレンジしてみてください！



■ 問合せ・連絡先：
地域実践教育研究センター

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3
横浜国立大学 経済学部1号館 406号室
TEL&FAX : 045-339-3579
chiki-ct@ynu.ac.jp
http://chiki-ct.info

